



金沢の用水

金沢を流れる用水は、市民にうるおいとやすらぎをあたえてくれています。昔から生活の水として大切な役割をもち、さまざまな利用がされてきました。そして今もかわらないその流れは、私たちのくらしと深いつながりを持ち続けています。



たつみ 辰巳用水

一六三一年の大火事で、金沢城は大きな被害を受けました。そこで、前田家の殿様は、井戸水にたよっていたお城の水を、犀川から引き入れることはできないかと考えました。しかし、犀川からお城の間には小立野の台地があるので、その工事は大変難しいものだったそうです。それでもすぐれた技術と努力により、約一キロメートルにもおよぶ用水がわずか一年足らずで完成しました。



金沢の3大用水とは？

おおのしょう 大野庄用水



お城の建築材料を運ぶことにも使われた、古い歴史をもつ用水で、昭和の初めごろまでは、水車が回っている風景が見られました。長町の武家屋敷の横を流れ、まちなみと調和した風景をもたらしています。

くらつき 鞍月用水



いつも多くの人でにぎわう香林坊を流れているこの用水は、一六〇〇年代の初めに、お城を囲む堀（そうがまえぼり）としての役目も果たせるようにつくられました。平成十七年に金沢駅周辺から21世紀美術館まで用水に沿ってのんびりと散歩できる「鞍月用水うるおいの道」ができました。

用水のこれから

用水のかかえる問題

- 1 ゴミの投げこみ ● ごみやあきカン、たばこの吸いがらなどの投げこみ。
- 2 動物・昆虫の減少 ● 昔、用水でよく見られた鳥や魚、虫などが減ってきている。
- 3 水の量の減少 ● 川の水不足で、水が流れない用水がある
- 4 暗きょ化 ● 用水の上に道や駐車場、私有橋がつくられている。

用水のかかえる問題を解決するために、多くの市民の方たちの協力をえて、再生への取り組みを始めることにしました。

このため『用水保全条例』という用水を守るためのきまりができました。今では、特に守っていかなければならない21本の保全用水が指定されています。

用水を守っていくために何ができるのだろうか？



問い合わせは
金沢市用水・惣構堀保全室
Tel 220-2310

きれいな水の流れ

一年じゅう水が流れるようにし、定期的にそうじをします。それに鳥や魚、虫などがすめる用水にします。



開きょ化(用水が見える)

道や駐車場でかくれているところを減らしていきます。



れきしてきざいさん
用水＝歴史的財産
ぼくたちが
守っていくんだ。



現在の金沢



江戸時代の金沢



「金沢城下図」石川県立図書館所蔵

金沢の歴史
左の二つの地図は江戸時代と現在の金沢中心部を表しています。お城、用水、道路といったまちなみが昔からほとんど変わっていません。これは、戦争で被害を受けることがなかったからです。

「用水などの昔のまちなみが残されている」これが金沢の特徴です。

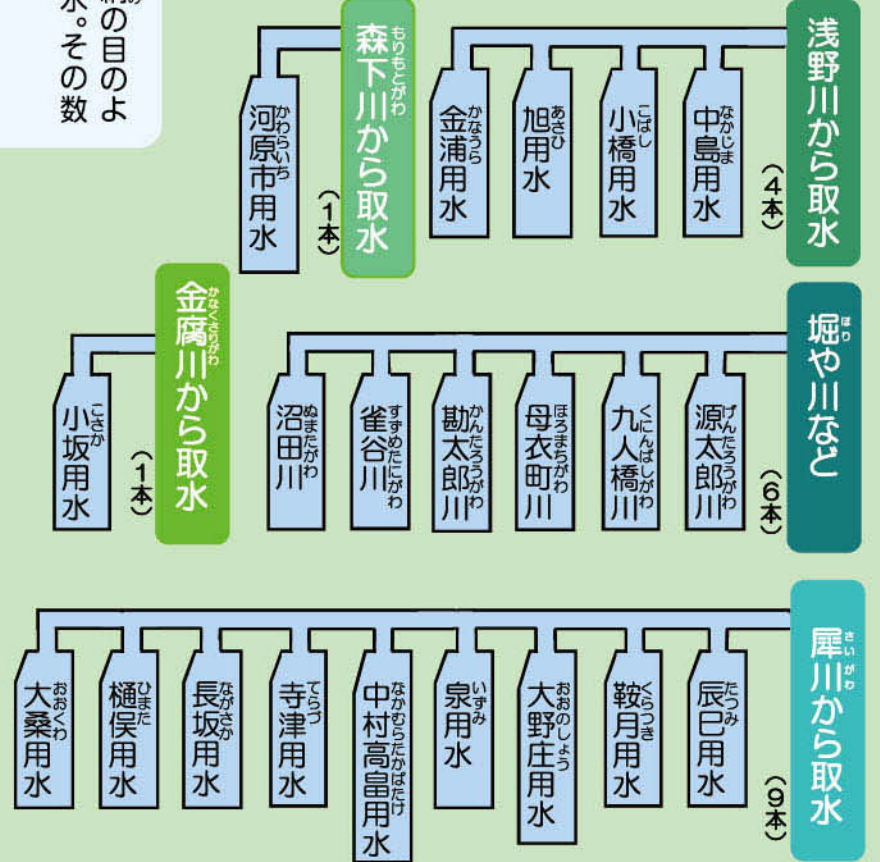


長さを含めると
一五〇キロメートル
になるといわれています。

金沢のまちを網の目のようにめぐる用水。その数は全部で
五十五本。

用水はいくつあるの？

ほ ぜん
保全指定されている用水は
全部で21本 約63キロメートル



用水の歴史

用水の発達

金沢のまちは用水とともに形づくれ、栄えてきました。

右の2つの図は1600年頃と1700年頃の用水の図です。

1600年頃は大野庄用水など一部は見られますが、まだ用水はほとんど見られません。

1700年頃には、辰巳用水、鞍月用水などがつくられ、現在まで受け継がれています。



用水の成り立ち

金沢の用水は江戸時代の初めから、たくさんの人たちの力によってつくられてきました。

その目的は、農業や生活のためだけではなく、金沢城の水不足を補うためにつくられたものや、堀として利用されていたものもありました。

元々は川だったところを用水として整えたものや、山を掘り進んでつくり上げた用水などがあり、その成り立ちも色々です。



徳川幕府と前田家の仲がうまくいっていないとき、お城のまわりを囲むように堀がつくれたんだ。それを惣構堀（そうがまへぼり）と言って、現在も用水として残っているところがあるんだよ。



元気な木 涼しい風
用水の近くでは、木が元気に育ちます。それは用水からじゅうぶんな水をすい上げることができるからです。車の排気ガスなどで弱ることもなく、元気に花や実をつけます。



用水豆知識
用水は、風の通り道です。あたたかい空気も用水で冷やされて涼しい風になります。夏の暑い時でも、用水の周りが涼しいのはそのためです。

用水豆知識

